２０２１年（令和３年）の初めに

2021.01.30　守山裕次郎

中国武漢で発生した新型コロナウィルスが昨年世界中に蔓延し、100 年に一度と言われるパンデミックの発生に至った。その結果 2 度目の東京オリンピックは 1 年間延期されたが、果たして今年 7 月に開催できるのか？現時点では甚だ疑問に思えるのが実感である。

更に最近では感染力がアップした変異種ウィルスも発生し、先日 11 都府県に再び緊急事態宣言が出されたが、いつ頃これが収束に向かうのか全く見通せない状況にある。その中で唯一の希望がワクチン開発で、早期の普及に大いに期待したいところである。

昨年は全世界が新型コロナに翻弄された年で、コロナに始まり、コロナに終わった感がある。他には米国大統領選並びに安倍総理の突然の辞任に伴う菅総理の誕生もあったが、このパンデミックと国内外の政治問題を含め、激動の 1 年間を以下振り返ってみた。

1．新型コロナウィルスによるパンデミックの発生

1）中国の隠蔽体質と WHO の機能不全

一昨年末、中国武漢で発生した新型コロナ肺炎だったが、当局の隠蔽で世界中にこれが拡散、その影響を受けていない国は皆無である。武漢の若手の医者（罹患後に死亡）が指摘した時、直ちに適切な処置をとっていれば、今回のパンデミックは確実に防げた。

中国共産党の隠蔽体質と傍若無人ぶりにはあきれ果てるが、加えてテドロス事務局長をトップとした WHO の機能不全が、このパンデミック発生の最大原因であることは間違いない。（武漢への WHO による査察が 1 年経ってようやく現在実施されているが、今更調べて何が判るのか？中国当局と WHO 双方の無責任ぶりが改めて世界中に知れ渡った）

2）我が国の初期対応の拙さ、危機管理のお粗末さ：その 1

昨年 1 月 23 日、1,100 万人都市の武漢が封鎖されたのは記憶に新しい。しかしこの時すでに半数の市民は市内を脱出しており、病院内では患者と死亡者が混在する大混乱状態のニュース映像が流されていた。未知のウィルス性の肺炎のようであり、この段階で我が国は即刻中国からの入国をストップさせるべきだった。（2 月の春節時の大量入国を前に）

ところが我が国は、武漢のある湖北省だけをターゲットに入国制限をしただけで、それ以外からは多くの中国人が来日、札幌雪祭りをはじめ全国各地での感染拡大に繋がった。

この判断に至った原因はインバウンド頼みの観光政策に加え、習近平の 4 月の国賓での来日（結果的に無期延期）と 7 月の東京オリンピック開催への配慮があったと推測される。だが中国で 1,100 万人都市を封鎖する「超異常事態」が発生し、原因が未知のウィルスにあるらしいことを知った段階で、即刻中国からの入国を遮断するのが危機管理の要諦で、我が国最大の国家的問題点が今回ここに露呈した。

※ちなみに WHO 未加盟の台湾は、17 年前の新型肺炎 SARS での貴重な体験を基に、昨年いち早く海外からの入国者を遮断した結果、現時点で累積感染者 881 名、死亡者 7 名と圧倒的に新型コロナを押さえ込んでいる。（WHO 未加盟なのが実に皮肉でもある）

3）危機管理のお粗末さ：その 2

初期の入国制限に失敗した我が国だが、幸運にも欧米に比べて患者数、死亡者数ともに桁違いに少なく推移した。だが未知のウィルスということで 4 月に緊急事態宣言が出され、学校を含む大幅な外出制限となった（第 1 波）。その後 6 月～7 月に感染者数は減少したが、8 月に第 1 波よりやや大きい第 2 波が来た。9 月に入り減少傾向になったが 11 月以降再び急増に転じ、年が明けると特に大都市での医療崩壊の心配までが叫ばれ、先日 11 の都府県に再び緊急事態宣言が出されるに至ったが、これについても我が国の危機管理のお粗末さ（その 2）を指摘せざるを得ない。

我が国は幸い欧米諸国に比べ圧倒的に新規感染者数、死亡者数が少ない。加えて全国の病院の人口当りベッド数も諸外国に比べて多いのが実情である。それなのに、何故に医療崩壊寸前の事態を招いたのだろうか？理屈では全くあり得ないことだが・・・

原因はコロナ患者を受け入れる病院（病床）が極めて少ないことにある。コロナ患者を受け入れた場合、病院側の労力とコストに加え風評被害を考えれば、できるだけ受け入れたくない事情がある。だが折角コロナ対策予備費枠（数兆円）を設けた訳で、この予算を年末までに各病院に重点投入し、ベッド数の確保を図り万全の体制を敷くべきだった。

ウィルス性肺炎の患者が冬期に増加するのは常識中の常識で、それを想定せずに現在の事態を招き、あわてて緊急事態宣言を出すこの国の危機管理とは、一体何なのだろうか？

4）危機管理のお粗末さ：その 3

コロナの影響で疲弊した観光業界や飲食店への対策として、昨年末まで Go To トラベルやイートで経済活性化させた政策は理解できる。（この施策でコロナ患者が増えた証拠はない）だが世論に配慮して 12 月にこれを中止し、再び 11 都府県に緊急事態宣言を出すに至ったが、今回も最大の問題点は海外からの入国を完全に止めなかったことにある。

ビジネストラック（商用）の名の下に、つい最近まで中国その他の国からの門戸を閉じなかったことが、感染力のアップした変異種まで我が国に入ってしまった原因だろう。
昨年、経済的打撃を受けた飲食店業界だが、彼らには再び午後 8 時の閉店要請をする一方、海外からはビジネス関係と申請すれば極めて緩い基準で入国させ、結果的に感染力アップの変異種まで入れてしまい、あわてて入国禁止にしたのだが、1 年前の失敗を全く生かせず「国家危機への感覚麻痺」はここに極まった感がある。（戦後平和ぼけの惰眠のツケ）

5）コロナ発生から 1 年経って

昨年の今頃、1 年後の今日を予測できた人は恐らく皆無だったろう。現時点で感染者数、死亡者数ともに欧米に比べて桁違いに少ない我が国だが、変異種も含めた第 3 波が猛威を振るっており、これがいつ頃収束するのか全く見通せない。（感染者：世界で 1 億人突破）

せめてワクチンに期待したいが、その調達から接種までの道のりは厳しく、1 年間延期されたオリンピック開催も再び危ぶまれている。いずれにしろ、世界中が同時に同じ試練に直面するとの極めて希有な状況になっているが、過去に様々な困難を克服した日本人の資質（DNA）を信じ、この困難を耐え抜きたいものである。

2. 米国大統領選で思ったこと

1）2,016 年トランプ大統領の登場

4 年前、民主党のヒラリークリントンに対し、共和党予備選では泡沫候補としか思えないトランプがあれよあれよと言う間に勝ち上がり、結果大統領に選ばれてしまった。下馬評ではヒラリーの圧倒的勝利が確実視されており、我が国にとりオバマの延長のヒラリーが無難かと当時は単純に考えていた。そのトランプ大統領は独特のキャラクターの持ち主で、「アメリカ・ファースト」を唱え、当初日本の防衛予算は極めて少ないとの不満を表明、政治経験のない新大統領の下、日米関係がどうなるか大いに心配したことを思い出す。

2）トランプ大統領の 4 年間

ところが過去 4 年間を振り返ると、日本に比較的冷淡だったオバマを含めた歴代民主党政権に比べ、特にトランプ大統領と安倍総理の相性の良さもあり、日本の国益から考えて実に有り難い大統領だったことが判り、日米はかつてないほどの蜜月関係となった。

トランプ大統領は個性が強すぎることもあり、国内外を問わず敵を多く作ったが、安倍総理とだけは不思議と馬が合い、「自由で開かれたインド太平洋」戦略を豪州やインドを巻き込んで推進し、対中国防衛戦略上極めて大きな成果を挙げることができた。

更に我が国の拉致問題にも大きな関心を示してくれて、金正恩との会談では直接解決を迫った他、国連演説でも拉致問題に言及し、横田さんや有本さんご家族への温かい配慮もあり、日頃のイメージとは全く異なる人間的な優しさの持ち主でもあった。

3）今回の米国大統領選

このようにトランプ政権発足時は未知数だった日米関係だが、トップ同士の相性の良さもあり過去最高の関係となった。特に中国は最近益々強化した軍事力を背景に拡張主義が目立ち、インド、南シナ海、台湾、日本（尖閣）への大きな脅威となっているが、それを傍観するだけだったオバマ政権とは異なり、中国に厳しく対応するトランプ政権の継続が我が国益に資すると思われたのだが、結果はバイデンの勝利となり甚だ残念である。

※トランプが敗北した原因は、米国でのコロナ患者の激増（大統領自身も罹患）に加え、数々の選挙不正疑惑が指摘されても、多くのマスメディアがこれらを完全無視したことなど、多勢に無勢の戦いだった。（メディア問題：米国民主主義の終わりの始まりか？）

4）今後の日米関係

バイデン大統領は 80 歳近い高齢で、果たして体力が持つかが最大の心配事ではある。なお、急進派の副大統領カマラ・ハリスは別として、各閣僚はオバマ政権時代に活躍した顔ぶれも多いようなので、せめてそのチームワークと総合力に期待したいところある。

トランプ時代のような蜜月関係は期待できないが、先日の防衛大臣同士の電話会談で、日米同盟の強化（含む尖閣防衛）が確認されたことは評価したい。なお日米最大の課題は中国の覇権主義をいかに防ぐかにある。尖閣諸島周辺での中国海警局船舶の日常的活動や、台湾侵攻への脅威も最近益々増加している中で、最悪の事態を想定した防衛協力が急務で、きめ細かな情報交換並びに共同軍事訓練が最大の抑止効果となるだろう。

3. その他政治・外交問題、個人的な雑感等々

・安倍前総理の突然の辞任に伴い菅新総理が誕生した。その安倍総理の置き土産として最初高かった内閣支持率がここにきてダウンした。名官房長官だった人物が名総理になるか否かは別問題と言われている。しかし現時点で菅総理に代わる人材を探しても、悲しいかな五十歩百歩以下ばかり（前回総裁選の候補者を含め)、我が国政治家の人材不足の深刻さを改めて実感させられる。だがそれもすべて我々有権者の責任である。

・一方で、野党の体たらくは更に絶望的である。この１年間、コロナ危機への政府対応のお粗末さはすでに述べたが、野党からの的を射た鋭い質問は全くなかった。（桜ばかり）当初マスメディアと共に PCR 検査第一主義で国民の不安を煽り、肝心要の論点を絞った議論ができない野党では、この緩みきった自民党に危機感が生じないのも当然だろう。先日の国会で蓮舫氏が菅総理の演説に関し、例のごとくヒステリックに質問して、ひんしゅくを買ったが、イメージダウンする彼女を立憲民主は何故起用するのだろうか？

・中国の拡張主義、国内での弾圧の酷さについて、我々日本人はどう対応すべきだろうか。チベット、ウイグル、内モンゴル他の民族弾圧を続け、海外からそれらを指摘されても「内政干渉」として全く受け入れないのが中国である。ポンペイオ前国務長官は任期の最後に「中国はジェノサイド国家」と認定したが、今こそが我が国「人権派」の出番で、中国を厳しく糾弾すべき時が来た。だが、果たして彼ら「人権派」はそうするだろうか？

・韓国文在寅大統領の異常さは益々激化の一途を辿っている。解決済みの徴用工や慰安婦など外交問題を国内の裁判所に任せ、再び我が国に賠償を求める異常さは半端でない。国際条約とはどのようなものか、イロハのイも判らない隣国である。この期に及んでは日本は黙ったまま無視を続け、万一の場合は「倍返し！3 倍返し！」するしかない。

閑話休題。

昨日、ヤンキースの田中投手が楽天に 7 年ぶりにカムバックすることを表明した。昨年コロナ騒動でメジャーリーグも試合期間短縮、無観客を余儀なくされ、どの球団も経営が厳しく、田中投手だけでなく FA 選手を中心に契約更改が遅れる選手が続出していた。

更に、日本以上に米国はコロナの影響が大きく、今年の試合期間や形式にも不確定要素が多く、様々な要因を考えての今回の決断だったのだろう。

思えば 2,013 年の日本シリーズ、原監督率いる巨人と故星野監督率いる楽天とが戦い、結果 4 勝 3 敗で楽天が優勝したが、9 回最後のマウンドを守ったのが田中投手だった。彼はその年開幕から連勝に連勝を重ね、ペナントレース 24 勝 0 敗と驚異的成績を残した。日本シリーズ 3-3 からの最終戦、前日 160 球を投げて「その年唯一の敗戦」を味わったが、翌日 9 回に再び登板して押さえ、ドラマのような優勝シーンだったことが思い出される。

翌年ヤンキースに移り昨年までの 7 年間安定した成績を残し、チームメートやファンに愛され、今回ニューヨークを去るに当たり、皆から大変惜しまれているそうである。

今年コロナが一段落したならば、メジャーで磨いたその実力をこの目で確かめるため、仙台行きを是非検討しようかと考えているところである。　　以上